

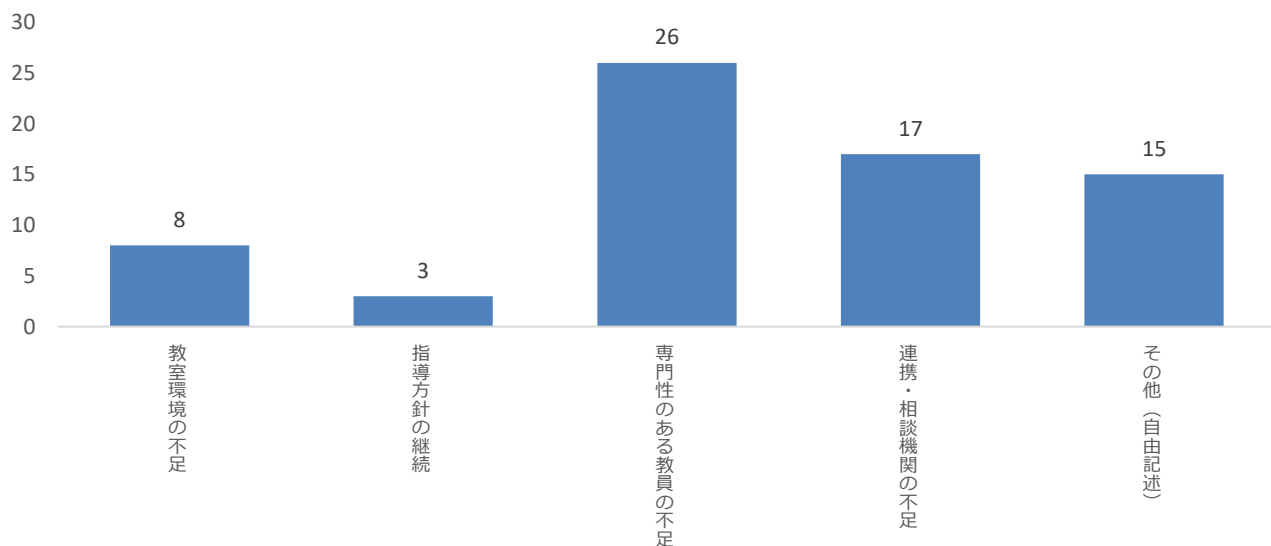


## 教育課程実施状況調査（特別支援教育関係）結果報告（3）

### ～日本人学校における特別支援教育の課題と工夫点～

国立特別支援教育総合研究所では、2023年5月に文部科学省国際教育課と共同で「教育課程等実施状況調査（特別支援教育関係）」を実施しました。以下にその結果をご報告します。

特別な支援を必要とする幼児及び児童生徒の指導・支援の実施に関する課題



特別な支援を必要とする幼児及び児童生徒の指導・支援の実施に関する課題について、「専門性のある教員の不足」が26校あり、最多でした。次に「連携・相談機関の不足」が17校の順でした。

その他の自由記述では、4つの項目に加えて、以下のような意見がありました。

#### ○児童生徒の多様性について

- ・日本語力の課題、在外での生活のための緊張や、様々なバックグラウンドをもつ子どもたちへの指導・支援が必要。
- ・取り出し指導の必要性を感じているができない状況。
- ・教材・教具の不足。

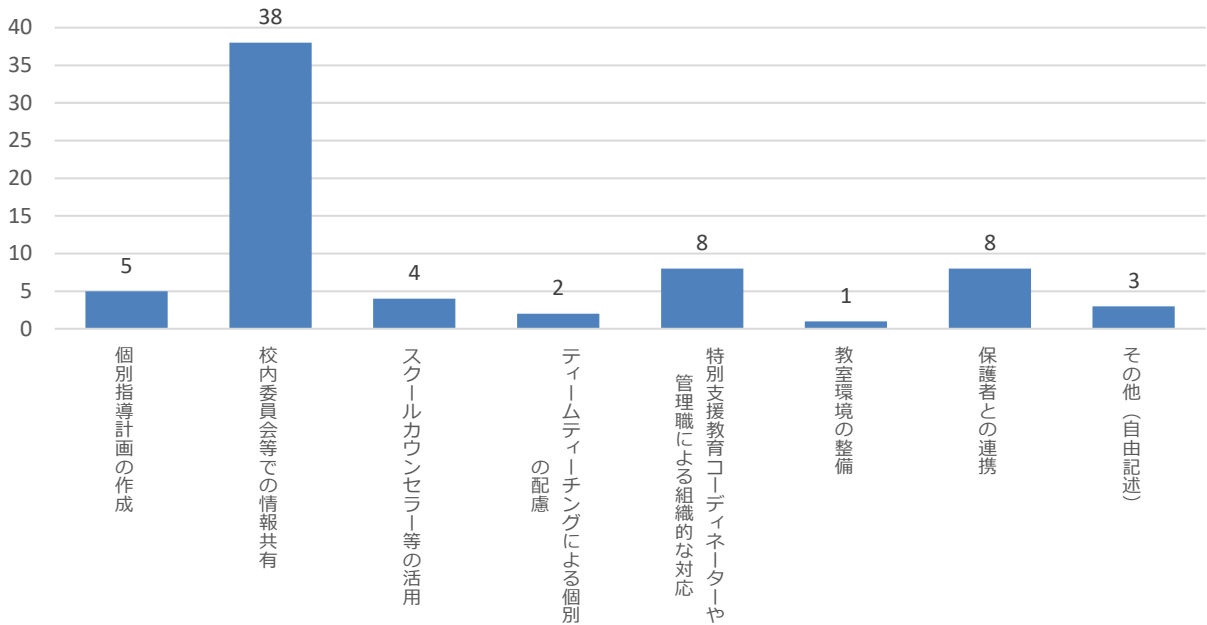
#### ○保護者との連携の難しさ

- ・保護者の困っていることと、児童生徒の困っていることに差があること、狭い日本人社会のため、保護者同士の人間関係等があること。
- ・保護者の負担で支援員を配置している。

#### ○校内外の連携について

- ・日本語での対応が可能なスクールカウンセラーが必要。スクールカウンセラーがいる場合でも、時間数が十分ではない。
- ・学級担任には、各教科担当、児童生徒、保護者との情報共有や連絡調整等を行う負担が大きい。
- ・医師との連携等、医療機関との連携が必要。
- ・専門家との連携の機会が不足している。

## 特別な支援を必要とする幼児及び児童生徒の理解や指導に関して校内で取り組んでいること



特別な支援を必要とする幼児及び児童生徒の理解や指導に関して校内で取り組んでいることとして、「校内委員会等での情報共有」が38校あり、多くの学校で取り組んでいることがわかりました。その他の自由記述では、以下のような意見がありました。

### ○学校全体での支援体制の整備

- ・職員研修やケース会議の充実等、全教職員での情報共有。
- ・個別指導や机間指導を行い、個に応じた指導の徹底。
- ・全児童生徒に対してできないことの指摘よりも、できたことに対してほめる指導を積極的に実施。

### ○保護者との連携

- ・保護者との連携を密にする。毎日の連絡帳などで指導、支援にあたることを確認している。
- ・特別な支援は、学校で全てを担うことができないことを伝達し、適切な教育環境を選択されることを勧めている。

## まとめ

特別な支援を必要とする幼児及び児童生徒の指導・支援の実施に関する課題として、「専門性のある教員の不足」、「連携・相談機関の不足」を挙げる学校が多く、自由記述では、児童生徒の多様性、保護者との連携の難しさ、校内外の連携の難しさが挙げられていました。

これに対して、「校内委員会等での情報共有」を多くの学校で取り組んでいることがわかりました。自由記述では、学校全体での支援体制の整備を行っており、職員研修やケース会議の充実等、全教職員での情報共有や個に応じた指導の徹底、できたことに対してほめる指導を積極的に行っている等の意見がありました。また、難しさはあるものの保護者との連携の必要性があらためて確認されました。

次回の特総研だよりでは、日本人学校における特別支援教育の研修と全体的なまとめについてお知らせします。



お問合せとご相談はこちらまで

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

情報・支援部 学校教育支援・連携 担当 小澤 至賢

連絡先：wsodan2@nise.go.jp